



PRESS RELEASE

本リリースは以下の宛先に送付しております。

岡山大学記者クラブ、文部科学記者会、科学記者会、
京都大学記者クラブ、九州大学記者クラブ

令和元年 8 月 30 日
岡山大学
国立歴史民俗博物館
同志社女子大学
九州大学

文部科学省 新学術領域（研究領域提案型）

「出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明」が発足

新学術領域研究（研究領域提案型）「出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明」（2019～2023 年度）が、岡山大学大学院社会文化科学研究科・松本直子教授を代表として発足しました。

本プロジェクトは、**認知・脳・遺伝の最新研究成果**をもとに、私たち人間が文明を生み、繁栄のための**人工的環境**を地球全体に張りめぐらすにいたった理由・メカニズムを解明し、さらに未来の展望を示す、**新世代の人類史学**を構築するものです。それぞれ独立して展開した文明の形成過程を比較分析できる「**歴史の実験的観察**」の場として、ユーラシア大陸の先のアメリカ大陸・日本・オセアニアの3地域を対象とします。3地域の人工的環境が、人間の身体・心との相互作用として形成されていくプロセスを、考古学・民族学・遺伝学・脳科学の観察・実験・分析により「**文明創出メカニズム**」として復元します。これは、物質／心、自然／文化、普遍性／多様性といった二元論的見方を超えた新世代パラダイムの研究領域「**統合的人類史学**」の構築であり、文・理の枠を無くした考古学・人類学・認知科学・脳神経科学・遺伝学・数学・各種分析科学などの約50名のコアメンバーを核とした第一線の学際的研究者集団が、公募研究を募り、人材育成も図りつつ、5年間で総額10億6900万円の交付を受けて遂行します。

■「出ユーラシアの統合的人類史学」プロジェクト概要

新たな知の探究：本プロジェクトでは、出ユーラシア地域各地の具体的事象（建造物・道具・技術・アート・生活様式・信仰・戦争など）を、実地の考古学的調査とその成果も活用して、体系的に集成し、定量的かつ定性的に比較します。また、そのような事象が生み出される過程を観察・記録するための人類学的・遺伝学的調査、および、事象のメカニズムを臨床的に分析・理解するための認知科学的実験を行います。これらの両者の成果を、脳神経科学や数学で一般化を図りながら高度にモデル化して、考古事象の理解にフィードバックします。

新たな知の公開と活用：本プロジェクトの成果は、国内外の学会や学術雑誌で随時発表するほか、ウェブサイトやSNS、ニュースレターを用いてリアルタイムで社会に公開します。また、公開シンポジウムやフォーラムを開催するほか、博物館施設における展示やテレビ番組を通じて、広く社会に還元します。さらに、VR・ARを活用した遺跡体験、アーティストなどとのコラボを中心とする催しを行うほか、高校生以下の児童・生徒への普及還元の取り組みを通じて、この研究領域の未来に向けた発展を担う次世代の育成にも力を入れます。

PRESS RELEASE

■ 本プロジェクト参画・協力機関

本プロジェクトは、岡山大学大学院社会文化科学研究科附属文明動態学研究センターを本部とし、南山大学を事務局とします。総括班・計画研究代表が所属する東京大学、岡山大学、国立歴史民俗博物館、同志社女子大学、理化学研究所生命機能科学研究センター、九州大学、南山大学、放送大学を中心に、40以上の機関に属する研究者が分担者・協力者として参画します。また、メキシコ国立人類学歴史学研究所、アリゾナ州立大学、タイ国立霊長類研究所など、海外の多くの機関とも連携して研究を進めていきます。さらに、公募研究によって研究を充実・発展させます。

■ 関連イベント等

- ・『出ユーラシアの統合的人類学：文明創出メカニズムの解明』キックオフミーティング

日時：2019年9月8日（日） 13:00～17:00

場所：岡山大学津島キャンパス文法経講義棟 10 番教室（岡山市北区津島中 3-1-1）

（公開・参加無料・事前申込不要）

- ・全体研究集会

日時：2020年1月11・12日（土・日）

場所：南山大学（名古屋市）

（詳細については2019年11月に告知予定）

- ・本プロジェクトの Web サイト

[http:// out-of-eurasia.jp](http://out-of-eurasia.jp)

<お問い合わせ>

岡山大学大学院社会文化科学研究科

教授 松本直子

（電話番号）086-251-7519（研究室・FAX兼用）

090-1012-6801（携帯電話）

（メール）naoko_m@cc.okayama-u.ac.jp

※「新学術領域研究（研究領域提案型）」は、文部科学省が公募・審査を行う科研費で、多様な研究者グループにより提案された、我が国の学術水準の向上・強化につながる新たな研究領域について、共同研究や研究人材の育成、設備の共用化等の取組を通じて発展させることを目的とするものです。

